

第2回ヴォルフスブルグ市国際青年会議参加を通して

多文化共生・国際課 及部 恭子

今回、私は国際青年会議に引率者として参加させていただきました。

ヴォルフスブルグ市（以下「ヴォ市」という）は、5月初旬の滞在中、朝晩は冷え込むものの、昼間は20度程まで気温が上がり、心地よいお天気でした。緑の木々が陽の光で輝き、小鳥のさえずりもよく聴こえました。コンパクトシティで、ほとんどの主要な施設まで徒歩で行くことが出来、治安の良さも感じました。



会議の主催団体メンバー

今回の会議には、ヴォ市が友好関係を持つ世界15都市の中から、7都市（ポーランド、メキシコ、中国3都市、日本、ヴォ市）が参加しました。会議の主催は、Stadtjugendring Wolfsburg という教育団体で、第二次世界大戦終戦後すぐの発足から70年以上に渡り、ヴォ市を始めとする世界中の若者の交流の機会を創出しています。メンバーの1人は、ナチス政権時代のユダヤ人の迫害、強制労働、東西ドイツ分裂などの痛ましいドイツの歴史について教えてくださいました。そのような悲惨な歴史を繰り返さないためにも、若者の教育が大切で、さらに意見の対立があっても民主的な方法で乗り越えることが重要だということ、その実践の場が国際青年会議であることが分かりました。

私達引率者には、学生達が会議をしている間、別のプログラムが用意されていました。市役所を始め、保育園、私立の総合学校、フォルクスワーゲンの専門学校と工場、ユースセンター、科学館、ヴォルフスブルグ城、旧東西ドイツの国境検問所など様々な場所を訪れましたが、特に印象に残ったことについて紹介します。

まず、ドイツは子供や若者の自主性を非常に重視しているということです。保育園を訪問した際、わずか4、5才の子供達が、次の時間自分が何をするのか（お絵描き、外遊び、ブロック遊び、英語、ごはんまで！※選択肢は決まっている）自ら決めていました。これは、日本の保育現場では見ない光景だと思います。また、保育園を始め、ユースセンターでも、ほとんどの遊具などは、大人や専門家のサポートを受けながらも、子供達自身で作ること、そしてその

レベルの高さに驚きました。会議中、引率者が学生達とは別の場所でプログラムを行うことも、参加学生達の自主性（自分で考え行動し、責任を持つ）を尊重し、信頼しているからこそだと感じました。

ユースセンターは、市内に5か所あり、若者自身も運営に携わっていました。心理の資格を持ったソーシャルワーカーも常駐し、訪れる子供達の、学校や家庭での悩みを聞いてくれる、第三の居場所となっているそうです。ヴォ市の元市長モアース氏も元々ソーシャルワーカーであったため、ユースセンターの設立や運営に積極的で、彼の功績やフレンドリーな人柄を称える声もよく聴きました。

フォルクスワーゲンが建てた私立の総合学校では、世界中からやって来て、ヴォルフスブルグのフォルクスワーゲンで働く親の子供が多く通うため、スペイン語や中国語を話す教師がいたりとダイバーシティが進んでおり、そのことは生徒達に良い影響を与えていると、学校のスタッフが話していました。この学校は、ドイツの一般的な総合学校が12年制であるのに対し、13年制と1年長く、生徒が失敗してもやり直せたり、様々な可能性（テクニカルな分野、音楽の分野、芸術の文化など）に挑戦できるフレキシビリティが特徴です。1年生から4年生までは合同で授業を受けます。それにより協調性が生まれるそうです。教師は各クラスに2名いました。また、学校には裕福な家庭の子もいれば、そうでない子もいて、裕福な親が学校に行く寄付金は、高価なドラムセットの購入など設備投資に充てられるそうです。

かつての東西ドイツの国境検問所 MARIENBORN 訪問の際は、当時の厳重な監視体制と、血も涙もない検問の様子を目の当たりにし、恐ろしくなりました。しかし一方で、このような場所が、今は誰もが無料で見学でき、子供達の重要な社会見学の場所になっていることは、とても良いと思いました。

最後に、出発前と後で、豊橋の学生達の表情が大きく変わったこと（全て英語によるディスカッションや文化の違いを自身の力で乗り越えたことにより、自信に満ち溢れている）に気が付いて、誇らしく思ったと同時に、彼女達と一緒に参加出来て良かったと心から思いました。彼女達は、今回の体験を通して、今まで当たり前だと思っていた常識が覆ったり、他国からの参加学生の高い英語力に感化されたり、外でのボランティア活動やアクティビティを通して体力が付いたなどと話していました。すでに鈴木さんは、豊橋市国際交流協会主催のグローバルラウンジを通して、豊橋市民と留学生の架け橋として活動してくれていますが、彼女達が今回の経験を周りの方達とシェアすることで豊橋市の国際化に貢献したり、今回 SDGs について考え、今後も取り組みを続けることで、日本を始め世界をより良いものにする人材として活躍してくれることを期待しています。

私は、豊橋親善大使のバローグ様や、普段メールでやり取りをしているヴォ市国際課の職員、市長、昨年豊橋市役所でインターンをしたヴォ市実習生に会うことが出来て、とても感激したと共に、対面で交流することにより、ヴォ市と豊橋市の関係性がより強固なものになったと感じました。今後は、労働力不足など、ドイツと日本が抱える共通の課題について、行政としてどう対処するかなど、深いレベルで意見交換出来ることを期待しています。

また、私も学生達と同様に、各都市から参加した引率者同士の交流を楽しみ、大いに刺激を受けました。彼女達は、私と同じ自治体職員もいれば、学校の先生や大学職員などバックグラウンドも異なりましたが、この出会いを大切に、これからも交流を続けていきたいです。

このように、学生達だけでなく、私のような引率者までもが、ドイツの文化や歴史に触れ、ヴォ市の魅力的な施設を訪問することで、パートナーシティとしての理解を深めることが出来ました。会議の主催団体を始め、協力して下さったヴォ市関係者に感謝の気持ちで一杯です。今後も、このような貴重な機会があれば、ぜひ豊橋市も参加すべきだと思います。ありがとうございました。



ヴォ市国際課職員と他国から参加の引率者達と